

「次世代の文化的資源活用まちづくり」シンポジウムで

“ これからの茅葺き民家を考える ”

主催：日本建築学会佐賀支所（佐賀の木・家・まちづくり協議会）

令和7年1月26日（日）

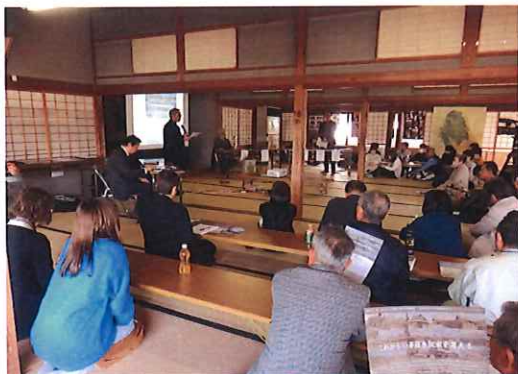
多久市西溪公園内 {寒鶯亭}

今年のシンポジウムは、【これからの茅葺き民家を考える】ことで、持続可能性に通じる価値が注目される茅葺き民家について、国内外の新しい取り組み状況などを紹介されました。また、「川打家住宅」（国指定重要文化財）を有する多久市において、茅葺き民家が点在する実情について情報共有（市内の調査を佐賀大学生が実施し報告）を行います。多久や北部九州の茅葺き、地域に根ざした建築の有り方、文化や景観の保全・継承の方策について、建築士、茅葺き職人、まちづくり関係者及び専門家と共に意見交換し、今後の可能性を考えると、(1) 基調講演、(2) パネルディスカッションが実施されました。

(1) 基調講演「茅葺きの継承と新潮流」

・講師：安藤邦廣（筑波大学名誉教授・日本茅葺き文化協会代表理事）

茅葺きの屋根、壁などに使用された日本の国内の有名な建築状況（白川郷など）と、世界の7か国の建築状況を紹介されました。また、日本最大の茅場は阿蘇の外輪山（約22,000ha）で有り、茅葺き職人の中尾さんより後継者不足と、安全対策をお願いされた。



※基調講演、状況写真

(2) パネルディスカッション：多久および北部九州の茅葺き民家の可能性

パネリスト・コメンテーター紹介

- ・北島智美（一般社団法人 柳川暮らしつぐ会代表）
- ・飯田政樹（多久市ふるさと情報館「幡船の里」地域おこし協力隊）
- ・稲次あゆみ（茅葺き職人）
- ・田代美都香（佐賀大学理工学部建築環境デザインコース 大学生）
- ・コメンテーター安藤邦廣（筑波大学名誉教授・日本茅葺き文化協会代表理事）
- ・コメンテーター上野弥智代（日本茅葺き文化協会 事務局長）

進行：後藤隆太郎（佐賀大学理工学部都市工学部門）

司会：江島 文（地域文化財研究室まちのつぎて代表）

司会：淵上貴由樹（佐賀大学理工学部都市工学部門）

「次世代の文化的資源活用まちづくり」シンポジウムで

“ これからの茅葺き民家を考える ” を題にして！！

パネリストの方々の、それぞれの立場で地元での状況を説明された。大事なところと苦労されているところなどと共に、今後の維持と保全に更に発展していく必要があるが、こちらでも同じく後継者が不足している状況を知ってほしいのと、本日の参加者の皆さんに後継ぎとして、参加して欲しいとお願いされていました。



※パネルディスカッション、状況写真

取材：（一社）佐賀県建築士事務所協会・大家